

平成30年度スケート実習報告

スポーツ科学部のスケート実習が、平成31年1月31日(木)～2月5日(火)の土日を除く4日間で、パピオアイスアリーナ(福岡市博多区)にて行われました。本年度の参加者は男子37名、女子28名の計65名で、多くの学生がスケート初体験という中、氷上で自らの動きをコントロールするという非日常的な動きに苦戦しつつも、技術の向上を目指して積極的に練習に取り組みました。

本実習は、スケートの基本技術を習得・実践するとともに、指導法を理解し、初心者への指導ができるようになることを目的として、各学生の能力や経験別に編成した6つの班に基づいて実施されました。

また、実習中は班の境界を越えた学生同士の教え合い・学び合いの時間も設けられ、各々が学習した技術やコツを言葉や動きにして学生間でアウトプットし合い、能動的に学習する様子が見られました。



氷上に安定して立つのも難しい



安定した滑走を目指して

最終日には、各班でレベルに応じた技術テストが行われました。中でも上級者の班では自由演技という課題が出され、学生は自分の能力に合わせた演技構成を考え一人ひとり発表しました。片足で長く滑ったり、ジャンプをしたり、ターンをしたり、手足を使って表現したりと独創性のある演技が行われ、他の班の注目も集めていました。

実習で唯一アリーナ全体を広く滑走できる全体滑走の時間には、習得した技術を発揮しながら、班別で行われていた練習時とはまた違った距離感やスピード感を味わい、他の班の学生と交流しながらアリーナ全体をのびのびと滑走しました。

学生のレポートでは、「氷の上で寝転ぶのは初めての経験でワクワクした」など日常にない体験への興味や期待感とともに、「最初は立つのもやっとで恐怖心さえあったが、最終日には氷の上で自由に楽しく滑ることができるようになりました」など達成感が伝わる学生の声が多く見られました。また、「一度コツを掴んでも、気を抜くと上手いかわなくなった」「1日目にできていたことが2日目の朝できなかった。基礎から練習し直すうちに感覚が戻った」など、運動学習や技術習得に関する気づきや、「自分ができていることをできない人に教える難しさを感じた」などの暗黙知を伝えることの難しさに言及した内容も散見されました。

このように、学生はスケート実習を通して、スケート技術の習得だけにとどまらず、運動学習、指導法、安全管理などの様々な観点から多くの学びを体験したようです。



片足滑りを習得



全体滑走の時間

最後になりましたが、実習の実施にあたりご協力頂いたパピオアイスアリーナの関係者の皆様に感謝申し上げます。